

やまなし栄養教諭育成指標一覧表

ステージ		採用時	全ステージ
教職としての素養	と社会で人	法令遵守	高い倫理観を持ち、法令を遵守している。
		自立	豊かな人間性と深い教養を持ち、自立している。
		協働・創造	優れたコミュニケーション能力を持ち、周囲と協働して新たな価値を創り出している。
	教員として	使命感・責任感	教育公務員としての崇高な使命と責任感を持って教育にあたっている。
		教育的愛情	児童生徒一人一人に愛情を持ち、未来の山梨を担う人材を育成している。
		意欲	時代の変化に対応し、自らの資質能力・実践力を向上させようとしている。
		研究能力	継続的かつ積極的に授業研究を行い、児童生徒に深い学びを提供している。

ステージ		採用時	第1ステージ 実践力養成期	第2ステージ 専門性充実期・協働力養成期	第3ステージ 指導力・協働力完成期
ステージのあるべき姿		教育に対する情熱と使命感を有し、今日の教育的課題を積極的にとらえようとしている	実践力を磨き、教員としての基礎を築いている	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化している	豊富な経験と広い視野から総合的な指導力・協働力を発揮し、積極的に学校運営を支えている
生徒指導	児童生徒理解	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	日々の声かけや面談により、児童生徒の気持ちに寄り添った指導をしている。	きめ細かな観察や励まし、カウンセリングの技法等を用いて、児童生徒の意欲を高めている。	児童生徒一人一人の生き方を考えさせる指導等について、校内をリードしている。
	道徳性の涵養		児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導をしている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	学校教育全般にわたって、児童生徒の道徳性を高める指導を展開する推進役となっている。
キャリア教育		社会の動向に関心をもち、キャリア教育の重要性を理解している。	体験活動等を有効に活用し、職業やキャリアプランを考えさせる指導を行っている。	キャリアプランの実現に向けた指導を同僚と協働して行っている。	学校全体のキャリア教育が、組織的に推進されるよう、指導的役割を發揮している。
特別支援教育		特別支援教育に関する基礎的な知識を身につけ、重要性を理解している。	児童生徒の学習上・生活上の困難さの実態をとらえ、個別の支援をしている。	特別支援教育に関する専門性を高め、関係諸機関と連携・協働し、効果的な指導をしている。	校内支援体制の充実や合理的配慮の提供に指導力を発揮している。
学校運営	連携・協働	学校運営における今日的課題を把握し、学校運営の重要性を理解している。	同僚や保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	関係諸機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	連携・協働による課題解決をリードし、学校運営の改善に貢献している。
	研修		自己の課題を認識し、必要な研修に主体的に励んでいる。	研修内容や成果を同僚と共有し、児童生徒に還元している。	研修の成果を学校教育活動・運営に生かし、組織をより良く変容させている。
	学校安全		いじめ防止基本方針や危機管理マニュアル等を理解し、学校安全に取り組んでいる。	方針やマニュアル等に基づいた取組を推進し、その改善に努めている。	学校安全に精通し、方針やマニュアル等の改善を推進している。

栄養教諭としての専門性	栄養管理	学校給食の役割について理解している。	学校給食摂取基準に基づき、食品構成を考慮した献立を作成している。	児童生徒の実態や学校・地域の特色に応じた献立を作成し、施設に合わせた調理指導をしている。	献立作成や調理指導の方法に関して、地区で指導的役割を果たしている。	
	衛生管理	衛生管理の重要性について理解している。	学校給食衛生管理基準に基づき、指導・助言をしている。	給食施設や学校の課題を的確に捉え、調理から喫食までの衛生管理について指導・助言をしている。	調理から喫食までの衛生管理に関して、地区において指導的役割を果たしている。	
	個に応じた対応・指導	児童生徒の実態把握と個別の栄養相談の重要性を理解している。	児童生徒の課題を把握し、教職員や保護者と連携して対応している。	児童生徒の健康状況に応じて、教職員や保護者と連携して対応・指導を行っている。	児童生徒の課題を総合的にとらえ、教職員や保護者と連携して対応・指導している。	
	食に関する指導	指導計画の立案と推進	教育活動全体を通して食育を推進することの重要性を理解している。	食に関する指導計画の必要性を理解し、実施している。	指導計画の立案に中心的な役割を果たし、食育を推進している。	指導計画に基づいた食育を実施し、改善の中心的な役割を果たしている。
		学校給食の活用		学校給食の献立や使用されている食品を活用し、効果的な指導を行っている。	給食時の指導計画を示し、学校給食の教材化を図っている。	学校給食の活用について、教職員への指導的役割を果たしている。
		教科等における指導		教科等の内容やねらいを理解し、専門性を生かした食に関する指導を行っている。	教職員と連携して、教科等での食に関する指導の内容、評価の計画作成を行っている。	教科等での食に関する指導の内容・評価について、的確な助言を行っている。

※ 第1ステージは採用から5年目まで、第2ステージは採用6年目～40代半ばまで、第3ステージは40代半ば～60歳までをイメージしている。

※ 黄色の箇所は、各ステージにおいて、特に重点を置いてほしい項目と内容を示している。